

水の恩恵への感謝を忘れずに

函館市立白尻中学校 三年 成田 美碧

自然は私たちに多くの恩恵を絶え間なく与えてくれる。その中でも特に、水は、何億年も前から私たちと共にある。この水という恩恵は、どれほど私たちの生活を発展させ、支えてくれているのだろうか。

地球にはたくさんの水に関わる自然がある。海、川、雨：どれも私たちの身近にあるものだ。そんな水がもたらす恩恵には、主に私たちの暮らしを支える特徴があると思う。

なぜなら、海や川が魚たちを育み、それが私たちの食事に、そしてまた、生活を支える仕事となるからである。

また、海や川の水が蒸発し、雨となって地球を潤すことで、植物が成長し、私たちの食事にもなる。この水は飲料水にもなり、ダムを満たすことで電気にもなる。栄養たっぷりの水は川や海の生物はもちろん陸の植物も育てている。

水は私たち地球上のすべてに恩恵を与え、その無限の可能性で私たちの生活を発展させている。エジプト、メソポタミアなど、文明が発展した土地は、川や海がすぐ近くにある。

私たちの地域には、日本で有数の縄文文化の遺跡がある。山と海に囲まれ、川が流れ、火山の影響で温泉も湧いている。日本発の昆布養殖事業に成功するなど海による発展を続け、「白口浜真昆布」として知られる献上昆布を生産している。また、江戸時代に取り入れた大謀網の北海道はじまりの地と伝えられている。水は私たちの生活を支え、文化や文明発達の手助けをしてきている存在だと考える。

しかし、私たちは今、水の恩恵に対し、感謝の気持ちを持ち、恩返しができているといえるだろうか。

私たちの住む南茅部には、厳島神社をはじめとして、大船荷神社や尾札部稲荷神社などさまざまな神社が漁港ごとにある。大漁を祈願し、海の恵みや安全な航海への感謝の気持ちを捧げてきたのだ。今でも神社ごとのお祭りや、南茅部を代表する「ひろめ舟祭り」などのお祭りや、神楽を奉納したりしている。世界遺産に登録された垣ノ島遺跡では、縄文人が祈りを捧げたと考えられるような遺跡が発掘されているという。

しかし、現在の南茅部の川や海には、ゴミがたまり、自然を大切にしているとはあまりにも言えない状況だ。ポイ捨てされたゴミは、有害物質を出したり、何年も分解されずに残ったりして、環境を汚染している。そこで私は、何かできることがないか考えた。

はじめに行ったのが、学校の周りのボランティア清掃だ。自転車で通学しているとき、歩道や道路脇の草むらに、たくさんのプラスチックごみや吸い殻、長靴などの生活ゴミが気になったからだ。生徒会長として提案し、たくさんの生徒や先生方が参加してくれたおかげで、予想以上の成果が得られた。この活動をきっかけに、今まで以上にゴミの分別に気を配るようになった。

次に行ったのが、節水と節電だ。使っていない部屋の電気をこまめに消したり、水を出しっぱなしにしたりしないことを毎日心がけている。普段の生活の中でちよつと意識することで、変えられることは多いと思う。

自然の恩恵をただ受けるだけでなく、自然への感謝の気持ちを、地球環境に優しいくらしをすることで形にできるのではないかと、私は考える。祖先が大切にしてきた海、水、自然を守ることもできるのは、今を生きる私たちが。

言うのは簡単だが、実行することはなかなか難しい。けれど、今、私たちが行動しなければ、自然の恩恵を私たちの手で殺してしまうだろう。だから私は、これからも自然環境をよくする活動をしていこうと思う。私たちに恩恵を与えてくれる自然、水への感謝を忘れずに。